

マッサージは十人十色



「上手なマッサージ師さんをお願いします」

私たちはよく、こういう依頼のされ方をします。「はい、承知しました」とは言うものの、この患者様にとってどんなマッサージ師が「上手なマッサージ師」だと感じるのか？ この組み合わせの妙技は、経験と勘の見せ所となります。

その1 人によって「上手」の感じ方は違う

一般的に言えば、「上手」の定義は、手馴れている・経験が長い・様々な症例を治療している・ツボにピタッとはまる等の「経験的要素」や「技術的要素」が挙げられます。しかしそれ以外にも、タッチが繊細・相性が合う等の「素質的要素」、一生懸命にしてくれる・愛情深い等の「人格的要素」があります。

マッサージは、看護や介護など他の人的サービスよりも、素質的要素や人格的要素が患者様により大きく影響します。なぜなら人は幼い頃から、両親や近しい人達からたくさんの愛情深いスキンシップを受け、何が自分にとって心地よいかを本能的に知っているからです。これだけ多くの要素が絡んでいるがゆえに、人によって「上手」の感じ方は違ってくるのです。

その2 施術方法が統一されると・・・

人は一人ひとり顔や性格が違います。同じように、マッサージ師のマッサージも一人ひとり違った味わいになります。逆に、施術方法が統一されたクイックマッサージ等は、この「味わい」がありません。言ってみれば「技術的要素」だけを追い求めたマッサージはマッサージ器とあまり変わらないとも言えるでしょう。

その3 担当者が替わることのメリット

担当者が替わると、最初は「違和感」を感じるかもしれませんが、しかし、同じ担当者が長年施術を続けていると、どうしてもマンネリ化したり、施術方法や結果に行き詰まりが出てくるのが正直なところです。つまりより良い「結果」を得るには、たとえお気に入りの担当者でも定期的に人を替え、そこに新たな視点や息吹を入れることが大切になってくるのです。(F・K)

